

登録コード	EKF59500	開講年度	2026					
授業科目	教科課題特別研究Ⅰ					担当教員	酒井 英樹 他	
英文授業名						副担当	西 一夫・茅野 公穂	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年		
講義室				授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ								
教育の専門職としての学識・技能					⇔	・自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。		
2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ								
教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点					⇔	・自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。		
(2)授業の概要	受講生は各自の関心及び教科領域上の課題に基づき、テーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究・開発を行い、最終的には実践研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたり、洗練された作品を提示することで、未知の知識を作り出していく学習。研究室内での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。							
(3)授業計画	授業は、個々の受講生の主体的探求にもとづいておこなわれるものであり、研究テーマや進捗状況に沿って支援・指導は行われる。本演習は、①研究テーマの設定、②調査・研究手法の決定、③調査・研究の遂行、④研究論文の執筆方法解説、⑤研究論文の執筆、⑥研究論文の発表とそれにもとづく討論、の各過程からなる。教科課題特別研究Ⅰは、①～③、教科課題特別研究Ⅱは④～⑥を行う。ただし、研究は研究領域・対に応じて多様で、リニアーに進行するものではなく、現場やフィールドとの絶えざる往復が必要。以下はあくまで一つの流れを示した例示に過ぎない。 第 1 回：データを整理する 第 2 回：データを分析する 第 3 回：分析結果の吟味 第 4 回：学術（実践）論文の構成（目次：全体の構造） 第 5 回：論文の執筆作業と点検（問題設定） 第 6 回：論文の執筆作業と点検（先行研究の整理） 第 7 回：論文の執筆作業と点検（分析方法と結果） 第 8 回：論文の執筆作業と点検（結論と考察） 第 9 回：論文の執筆作業と点検（引用・参考文献・資料等も含め全体の吟味） 第10回：論文の推敲 第11回：論文の完成 第12回：口頭報告の準備（資料作成） 第13回：口頭報告の準備（予備練習） 第14回：口頭報告会（口頭試験）							
(4)成績評価の方法	各回の取り組み・発表（30%）、及び実践研究論文の内容（50%）、口頭報告会におけるプレゼンテーション及び質疑応答（20%）、によって評価する。※評価割合は、若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可							
(5)履修上の注意	自ら課題を設定し、主体的に研究を進めること。わからないことがあれば質問をする。各自、研究テーマに関連した文献等を国際的な動向を含めて図書館などで検索・収集すること。他の受講者が発表する際には、積極的に意見を述べて討論すること。							
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、別表「担当教員のオフィスアワー」を参照すること。							
(7)成績評価の基準	（i）問題の設定が適切であり（自らの研究関心に依拠し、新規性・有用性のある問い） （ii）問題の背景の説明、先行研究との関連づけ・位置づけが的確で、 （iii）課題が明確でありかつ、課題に対する解決策（研究方法：データ収集・分析、フィールド、文献の扱い方など）が適切で （iv）主張・見解が独創的で、説得力あるかたちで論証（論旨の明快さ、形式、研究倫理）できており、 （v）報告会でプレゼン、質疑応答が適切にできていれば「卓越している」。（i）から（v）の4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。							
(8)事前事後学習の内容について	・内容によって、授業日程や開催場所を変更することがある。 ・履修に当たっては、自らの研究課題を考慮し、指導教員と相談の上で決定すること。 ・それぞれの授業で行うことの準備と修正作業を主体的に行うこと。研究テーマは事前に考えておく。修正点を指摘されれば、自ら問題を解決し修正していく。調査方法や先行研究など、関連した文献等を、国際的な動向を踏まえて図書館などで検索・収集し、内容を整理し報告する。研究計画書を作成する。							

【教科書】	指定しない
【参考書】	適宜紹介する。